

有識者からの助言

養老町観光景観林総合整備計画を策定するにあたり、平成 30 年度にこの地域の基盤環境（森林生態）に詳しい有識者へのヒアリングを実施した。

【日時】 平成 30 年 9 月 20 日(木)14:00～15:00

【ヒアリング先】 安藤正規

(岐阜大学応用生物科学部生産環境科学課程 環境生態科学コース 准教授)

【聞き手】 アジア航測株式会社 恩藤真、石原淳

【助言の内容】

- ・業務エリアは、主要の植生が常緑広葉樹(アラカシ優占)であるため、吉野山のイメージとはだいぶ違った景観となる(桜の名所となっている吉野山も高遠も湖北も落葉広葉樹林が優占する地域である)。
- ・住民の安全を確保するためには、まずは治山に重点を置き、そのうえで景観に配慮することが望ましい。
- ・吉野に比べて急傾斜地が多いため、治山上の問題をクリアする必要がある(土留めを張り巡らす必要がある)。4～50 年かけて基盤を整備して、そのうえで林冠を入れ替える必要がある。莫大な費用が掛かる(億単位)と予想される。
- ・現在の歩道沿いに植栽することが最も安全で安価であると考えられる。
- ・シミュレーション画像を作成して、市民に意見を仰いではどうか。地域住民の理解(意向の確認)を得ることも重要である。
- ・サクラは寿命が短いので、永遠にサクラを植え続ける覚悟が必要である。整備エリアは養老山地の一部であるため、そこだけサクラを植栽するのは景観の連続性に合わないと考えられる。
- ・社会が求める観光のあり方が変わってきており、見物型から体験型に変えないと人は集まらない。集客を目的とするのであれば、サクラを植えること以外の方法も検討すべきである。
- ・写真の画角に収まる範囲だけを整備する方法、いわゆるインスタ映えを狙った整備がよいのではないか。ただし、インスタ映えは現時点の流行であり、サクラが育つ頃には別の流行に移行している可能性がある。
- ・養老公園は展望が利かないのが特徴である。上部の駐車場付近から見える景色をすべてサクラにするのは難しい。そのため、散策ルートのみをサクラにして、視覚的な効果(撮影したいと思わせる)を狙うのが望ましいと考えられる。
- ・植栽のしやすさをゾーニングするとともに、視点場を検討して、そこから植栽場所(範囲)を検討するとよい。
- ・名大の演習林でモミジの名所にしようと試みたが、崩れた経験がある。崩壊地に隣接するような場所で景観を優先すべきではない(植栽量が少ないことや筋工が少なかったことが原因だと考えられる)。一方で、崩壊地にサクラを混ぜるのは問題ないと思う。
- ・サクラは急傾斜地であっても光さえ確保できれば十分生育する種であると考えられる。
- ・サクラやモミジの苗はできる限り大きなものが望ましい。小さなものだとシカの食害にあう可能性が高い。
- ・植栽木に対するシカ害への対応として、ネットを面的に配置することが効果的であるが、莫大な費用がかかる。
- ・海外観光客(特に中国人)をターゲットに呼び込む考え方も必要かも知れない。
- ・単位面積あたりの筋工の必要性などを整理してはどうか。
- ・シカが多い場所にはイノシシが少ない傾向にあり、養老公園はシカが多いためイノシシは少ないと考えている。
- ・ウワミズザクラは、現在の分類学上サクラではなくなっている(ウワミズザクラ属)。ウワミズザクラはシカの食害にあいやすいが、サクラ属は少ないというデータがある。
- ・シカが多い場所は、一度植栽をすると、それ以外の種が生えてこず、治山の機能が失われる恐れがある。
- ・保安林を植栽する場合は、最低植栽本数があるため、注意が必要である。
- ・地形条件で区分して、各エリアで治山上の金額を算出して植栽エリアの優先順位を示してはどうか。